



中土佐町教育研究所

# 研究所だより



冬至の候、皆様方におかれましては年末の慌ただしい時期をお過ごしのことと存じます。今年、週休日の関係で仕事納めが早く、長い正月休みを利用して旅行等の計画を立てている方も多いと思います。大きな災害もなく穏やかな年明けとなるよう願っています。

11月22日に高知県教育研究所秋季研修会が、宿毛市で開催され参加しました。建設されてからまだ日が浅い宿毛小・宿毛中の校舎は、小学校と中学校が同じ建物で併設され、とても美しい校舎でした。校内では当たり前の雰囲気でも小学生も中学生も交わりあって過していました。公開授業参観で廊下を歩くとどの教室からもたくさんの挨拶をしてくれました。授業は、どの教室も板書がとても美しく丁寧に、小学校国語の授業では物語文の登場人物の心情に迫る読み取りが行われていました。ICTの活用もされていましたが、従来の指導方法や指導技術とICTがよくマッチしている印象を受けました。

研究所からの報告では、宿毛市には7小学校と5中学校があり、研究所の活動は、学力向上、健全教育・教育相談、情報教育、教育相談センター事業の4部門にわかれていて、不登校対応については主に健全教育・教育相談の部署で行われています。その中に「3日調べ」の項目がありました。3日連続で休むことが不登校の前兆であることもあり、調査を行って、4日目にならないように連携・取り組みを行っているようです。不登校は初期の段階で適切な対応を行うことがとても大事なことでと認識はありますが、学校と関係機関が連携して取組ができているということを知り、素晴らしいことだと感じました。

中土佐町こどもセンターでは、福祉関係の機関（子ども家庭センター・子育て支援センター）と教育関係の機関や専門職（適応指導教室・SC・SSW・育成センター・教育研究所）が同じ施設内に設置されています。不登校対応を考えてみると、学校教育関係では、対象の子どもの不登校の原因を探り、再登校等の目的を設定し組織的に指導していくことが中心になります。また福祉関係機関は、相談を軸にして、家庭の不安を受け止め、本人や保護者・家庭への支援に重きを置きます。子どもが安心して過ごせる環境作りや、子どもの「できること」に目を向け、可能性を広げる後押しをします。このように、アプローチや支援の方法で違いがありますが、中土佐町こどもセンターでは、福祉と教育が連携して対応できることが強みとなっています。



昨年度から中土佐町教育研究所はこどもセンターで適応指導教室の業務の支援を行っています。また、研究所として、不登校児童生徒への支援の在り方やICTを使った生活や学習のサポートなどをテーマとして研究を進めています。今後、研究成果をフィードバックしながら不登校や不登校傾向の児童生徒に寄り添う支援や連携ができていくように研究を深めていきたいと考えています。

中土佐町教育研究所 所長 古谷智史

## 2 学期 中土佐検定結果

中土佐検定は、9 月に「中学校漢字」第 1 回検定、11 月に中学校「数学」「英語」、小学校「算数」第 2 回検定を実施しました。町全体の結果は次の通りです。

### 小学校 算数 (第 2 回)

学年	1年生 (17級)	2年生 (14級)	3年生 (11級)	4年生 (8級)	5年生 (5級)	6年生 (2級)	町全体
受検者数	29	26	26	36	30	32	179
平均点	98.1	79.4	94.4	78.5	73.9	87.4	84.9
合格率(%)	100%	100%	100%	86%	97%	97%	96%

### 中学校 数学 (第 2 回)

学年	1年生 (8級)	2年生 (5級)	3年生 (2級)	町全体
受検者数	21	30	39	90
平均点	67.7	73.5	67.4	69.5
合格率(%)	62%	70%	59%	63%

小学校 1 年生は初めての中土佐検定試験でした。真剣に取り組んでいます。



### 中学校 英語 (第 2 回)

学年	1年生 (8級)	2年生 (5級)	3年生 (2級)	町全体
受検者数	21	30	40	91
平均点	70.4	77.3	70.4	72.7
合格率(%)	76%	80%	70%	75%

### 中学校 漢字 (第 1 回)

学年	1年生 (6級)	2年生 (4級)	3年生 (2級)	町全体
受検者数	22	30	39	91
平均点	77.7	75.5	77.9	77.0
合格率(%)	82%	83%	82%	82%

平均点は 1 回目の本試験の平均点  
合格率は再試験、再々試験を含めた合格者の割合

小学校 1 年生は初めての中土佐検定をととても楽しみにしていて、検定が始まると真剣な表情で取り組んでいました。中土佐検定は 3 回チャンスがあり、再試験や再々試験で合格となるパターンもあります。しかし、できるだけ 1 回目の本試験で 80 点以上の合格になってもらいたいです。

中土佐検定は、全国や県の学力調査のような大規模なものではありません。また、算数・数学でいえばすべての単元を網羅するものでもありませんが、子どもたちの基礎学力がきちんとついているかの一つの指標となります。中土佐町では、10 年以上中土佐検定に取り組んでいます。

## グローバル人材育成事業

中土佐町が研究指定を受けている「グローバル人材育成事業に係る、小・中・高合同授業研究会」が、11月7日に、久礼小学校、久礼中学校、県立須崎総合高等学校を会場に行われました。同じ日に小・中・高と英語の授業公開が行われることはめったになく、興味深く参観させていただきました。久礼小・中とも、講師の先生からも高い評価をいただいています。中土佐町では2人のALT(外国語指導助手)の先生が各小中学校の外国語の授業に入っています。この日も担任とALTがうまく連携しながら子どもたちに指導していました。ネイティブの発音を耳にする機会はまだまだ多くなく、貴重な機会となっています。

全体講演会では、講師の敬愛大学向後秀明教授から、この日の授業と英語教育の現状に関して次のようなメッセージがありました。

### 授業について

- ・小学校では、発表、やり取り、聞くこと、読むこと、書くことに関わる活動すべてが言語活動となる。
- ・個人しかもっていない情報や未知の情報のやり取りは、子どもをワクワクさせる。
- ・小学校では、限られた表現で同じやり取りをさせ、繰り返すことで慣れ親しませる。
- ・語順や文法などの正確性を詰めるためには、書くことによって詰めることとなる。
- ・正しい文になっているか、どこが間違っているかといったことを確かめさせるのにAIを活用したら効果的。

また、話すこと、聞くこと、読むこと、書くことのどれでもかまわないので、量的にも時間的にもたくさんの英語に触れさせることで、正確性が増すこともある。

### 英語教育について

- ・英語で表現したいことと、表現できることとは差異があり、その差異に課題があるのは一生あることなので、その点も踏まえて英語学習をしてもらいたい。日本語のように、簡単に表現できないという苦しさを経験することも重要。
- ・AIは普及しているが、AIとのやり取りをベースや練習台にして、あくまで対人のやり取りに重きを置き、AIを活用しても、必ず人とのコミュニケーションに戻すことが大切。
- ・教師が英語での言い方の正解を教えるのではなく、子ども自身がもっている限られた知識の中で試行錯誤しながら発する英語の方が子どもの英語での発信力の向上につながる。
- ・意欲関心や能力が多様な時代となり、児童生徒によって取り組む内容やレベルが異なる。その中で教師が多様性を認めつつ、いかに子どもたちを生涯学び続けられる人にさせるかが重要なので、教師も学び続けることが求められる。

グローバル人材の育成に欠かせないのが英語力ですが、AIの普及で機械の翻訳力も向上している中、やはり対人のコミュニケーションが重視されるということを聞き、英語だけでなくあらゆる機会に小中学校の時代にできるだけ対人の機会を持たせたいものだと感じました。



小学校のALTは  
大森テレサ先生



中学校のALTは  
コックス ヤスミン先生



## 輝く中土佐の子どもたち

中土佐町の子どもたちの授業の様子です。参観させていただいた授業から、子どもたちや先生が輝いている姿を掲載することで学校と研究所との取り組みの共通理解を図っています。小規模校の上ノ加江小と大野見小は、クラスが遠隔でつながって子どもたちが交流することもあるそうです。デジタル化によって学習の広がりができることはいいことです。

### ☆ 9月18日(木) 久礼小学校授業研究

授業者: 山脇 智恵 教諭

単元名: 外国語科 第6学年 Unit2 Lesson3 I went to the beach 夏休みにしたことを伝え合う

感想: たくさんの参観の先生方に、積極的に話しかけにいく子どもたちの姿がとてもすてきでした。初めて対面する先生もいる中で自分から話しに行こうとするのは、すごいことだと思います。外国語に限らず日頃から子どもたちのチャレンジ精神向上のための手立てがきちんとなされていることがうかがえました。どの子どもも英語で尋ねると英語で自分のことを話すことができていました。授業者が率先して英語を使って話そうとする姿が、英語で話してみようという意欲につながっていたんだと思いました。また、子どもたちは、ALTのテレサ先生が話す英語をよく聞いていたと思いました。3年生での外国語活動から英語に慣れ親しみ、よく聞くことで身につけていることがたくさんあると感じました。30人のどの子にも支援の目が行き届いている授業でした。(渡部)



久礼小学校

### ☆ 9月19日(金) 上ノ加江小学校校内研修

授業者: 武田 大知 教諭

単元名: 算数科 第3学年「大きい数のしくみ」、第4学年「がい数の表し方と使い方」

感想: 3年生、4年生ともに子どもたちで学び合うことができていました。相手の考えを聞いた後に「どうですか」「分かりました」と丁寧に反応しながら学ぶ姿がとてもすてきでした。また、意見を出し合うとき、「何で?」と相手に疑問を投げかける場面があり意欲的に学ぶ子どもたちに感心しました。3年生では、伝え合う場面でスクリーンに子どもたちが入力した考えを提示されていました。子どもたちはそれをたよりに安心して自分の考えを伝えることができていました。4年生では、子ども同士で意見を交わし、ホワイトボードへの記入も4人で協力して行っていました。違う意見を聞こうとする4年生の姿は3年生の良き手本となっています。ICT機器が積極的に活用されており、特に自力解決の時には、一人では中々考えがまとまらない子どもにとって、画面の友達の考えを参考にできる点は、効果的な活用だと思いました。日頃から効果的に活用されていることがうかがえました。(渡部)

### ☆ 10月14日(水) 大野見小学校校内研修

授業者: 大崎 秀 教諭

単元名: 国語科 第3学年「大野見小もっとよくするぞ!プロジェクト」  
第4学年「自分の言葉で児童会の心をつかもう」

感想: 「書くこと」は、かつては、鉛筆で紙に文字を綴っていく作業でしたが、修正等で書き直すのは大変な作業でした。今は、デジタル環境で、子どもたちがキーボード等で入力したり、手書き文字を簡単にテキスト化して、編集、推敲作業が簡単にできるようになっています。しかし、だからといって、いい文章が作れるわけではなく、日常の言語活動から培われ積み上げられていく力とセンスが必要です。大野見小では読書への取り組みや言語環境を整える取り組みがきちんと行われていて、いい文章が書ける児童が育っていると感じました。

この授業でICTの活用はとても有効だったと思います。使いこなしている大崎先生は素晴らしいと思います。どの学校でもそうだと思いますが、ICT環境はどんどん進化しています。今後ますます必要になってくるとは思います。進化についていく先生方も大変だと感じています。(古谷)